

平成26年度 学校教育に関するアンケート調査の結果について

1 アンケート調査による自己評価と学校関係者評価

(1) アンケート結果のまとめと考察 (○良い点 ●改善が必要な点 △その他)・・・自己評価

① 子ども

◎学校生活の大部分の項目において、8割を超える児童がプラス評価をしている。

○「自分から進んで挨拶している。」の割合が年ごとに少しずつ向上し、8割を超えた。

○「友達と仲良くして、学校生活を楽しくしている。」の割合が年ごとに向上している。

○「交通のルールを守って生活している。」の割合が年ごとに向上している。

○「おうちの人と毎日いろいろなことについてお話をしている。」の割合が徐々に増え、8割を超えた。

△「サマースクールは参加して良かった。行きたかった。」の割合が年ごとに増えている。しかし、まだ6割であり、さらに魅力あるテーマを考える必要がある。

●「授業中進んで発表しようとしている。」の割合が下がっている。しかし、「授業(勉強)はよくわかる。」は8割6分(86%)と高い割合である。授業内容の理解を授業への積極的な参加へとつなげる工夫が必要である。

●「給食を好き嫌いせず食べている。」の割合が8割未満となっている。さらに食育を進める必要がある。

●「元気いっぱい過ごして、健康管理や体力作りをしている。」の割合が8割未満となっている。狭い場所での運動チャレンジプラン等に、さらに取り組む必要がある。

② 保護者

◎本校の教育については多くの方にご理解をいただいております。大部分の項目において8割を超えるプラス評価となっている。

○「学校行事やPTA活動などに参加するようにしている。」の割合が増加している。感謝するとともに、さらなる参加呼びかけや魅力あるPTA行事を心がけたい。

△「サマースクールは子どもたちにとって有意義であった。」の割合が増えている。しかし、この項目に関してはまだ5割強であり、さらに魅力あるテーマや募集人員の増加等を考える必要がある。

△「家庭でお子さんとはできるだけたくさん会話している。」の割合が減少している。しかし、児童が「家庭で会話している。」と感じている割合は増加している。会話の内容が児童の心に残る内容になってきているためと思われる。

●「お子さんは学習に意欲的に取り組んでいる。」の割合が7割を切っている。学校及び家庭での児童の学習意欲向上策を工夫する必要がある。

●「教職員が挨拶などの生活指導をしている。」と感じている割合が下がっている。ただ、今年度も積極的に取り組み、上記のように児童の意識も向上している。大人に対する挨拶励行や保護者に見える生活指導を心がける必要がある。

③ 教職員

- ◎学校教育目標の実現に向かって学校運営されている。
- よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するように努めている。
- 事故・事件・災害などに対して、迅速かつ適切な対応ができるように役割が明確にされている。
- 運動の楽しさを高めるための学習内容・方法・指導をさらに工夫する必要がある。
- 特別支援学級の正しい理解をより推進するための交流活動をさらに考えていくとよい。

(2) アンケート結果に基づいた学校関係者の意見……学校関係者評価

① 挨拶について

- ・大人からも挨拶をするよう心がけるとよい。
- ・下校時、少しずつ挨拶してくれるようになっている。

② 人間関係について

- ・人間関係を学ぶ場が減っている。自分本位に物事を考える子どもが増えている中で、先生方はよく頑張ってくれている。

③ 運動会について

- ・とても良い運動会だった。城東中学校での運動会実施は準備や運営で先生や子ども、保護者も大変苦勞したと思うが、広いところでの運動会は子どもにも保護者にも良かったのではないかな。
- ・運動会種目に関しては、練習場所不足等、制約のあるなかでよくできていたと思う。特に全員で踊った全校ダンスはとても良かった。

④ サマースクールについて

- ・魅力あるテーマや募集人員の増加を考えることはとてもよいことだと思う。

⑤ PTA 活動等について

- ・PTA 活動に参加してくれる人が増えていることは大変喜ばしいことだ。
- ・子どもの見守りパトロールに PTA が参加してくれないだろうか。

⑥ 人権について

- ・人を傷つける言葉についても家庭と協力して指導していくと良い。言葉遣いの改善は学校だけではなかなか定着しない。

⑦ 学力向上について

- ・学力の基礎（読み書き、九九や足算・引き算）を身に付けさせてほしい。

⑧ 体力向上について

- ・運動場がないという制約があるが、現状でできることをいろいろと工夫してくれている。さらに工夫して体力向上に結びつけてほしい。

2 今後の学校教育改善方策について

○児童の学習意欲向上策を工夫する。

- ・平成27年度の校内研修では、授業研究だけでなく教科主任の指導力を生かした研修を継続し、授業力を向上させるとともに工夫を加えながら分かる授業の定着に努める。

○運動の楽しさを高めるための学習内容・方法・指導をさらに工夫する。

- ・狭い場所での運動チャレンジプラン等の実施

○特別支援が必要な児童について可能なサポートを見直す。

○学校・家庭・地域の連携をさらに進める。

- ・PTA 活動への参加呼びかけや魅力ある PTA 行事を心がけるとともに保護者どうしの繋がりづくりに努める。
- ・今まで以上に、PTA 総会・PTA 役員会・学級懇談などの機会を捉えて子どもたちの現状を知らせ、共に考えていくように努める。
- ・コミュニティ祭など地域の行事に教職員と PTA で積極的に参加する。
- ・地域のコミュニティ紙への寄稿・オープンスクールの実施などにより学校の様子を広く知ってもらう。
- ・総合的な学習や生活科において、地域の人材だけでなく地域の企業とも積極的に交流する。

○サマースクールでの募集人員増や魅力あるテーマ設定に努める。

○食育を積極的に進める。